



◆平均値と散らばり

下の表は、6 年 1 組と 6 年 2 組の男子のソフトボール投げの記録です。
記録がよいといえるのはどちらの組でしょうか。

ソフトボール投げの記録 (1 組)

番号	きより(m)	番号	きより(m)
1	28	8	29
2	36	9	28
3	27	10	35
4	28	11	40
5	37	12	26
6	30	13	21
7	29		

ソフトボール投げの記録 (2 組)

番号	きより(m)	番号	きより(m)
1	24	8	36
2	22	9	35
3	24	10	35
4	40	11	36
5	18	12	32
6	35	13	19
7	33	14	31

① それぞれの組のデータの^{へいきんち}平均値を求めて^{くら}比べましょう。

1 組… **約 30.3** m

2 組… **30** m

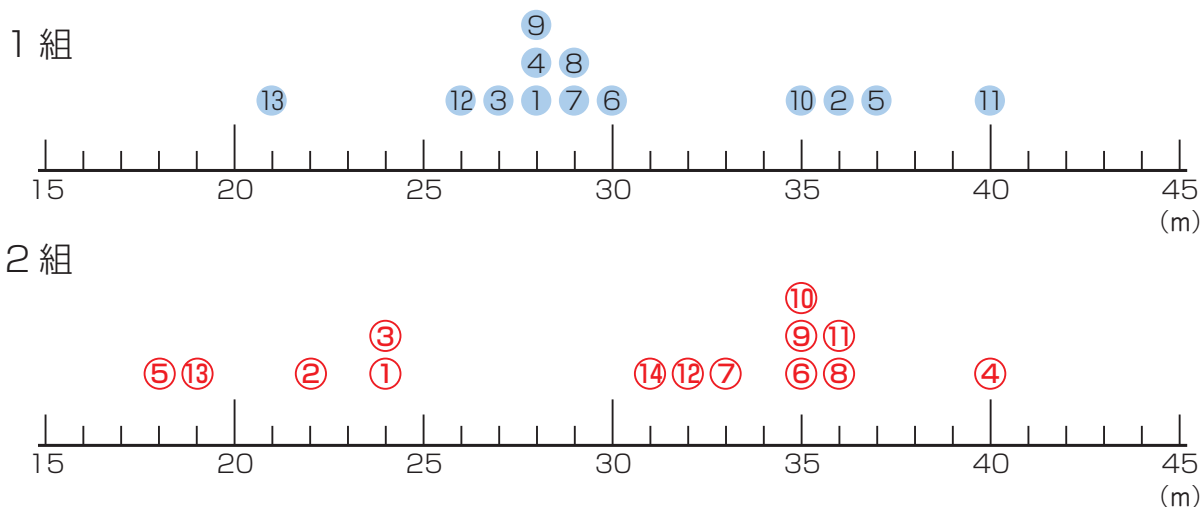
データの^{こすう}個数が異なる^{へいきんち}ときは、平均値で^{くら}比べることがあるよ。

② 平均値で^{へいきんち}比べると、**1** 組のほうが記録がよいといえます。



1 組と 2 組のデータの散らばりの様子を調べましょう。

① 1 組と同じようにして、2 組のデータを数直線に表しましょう。



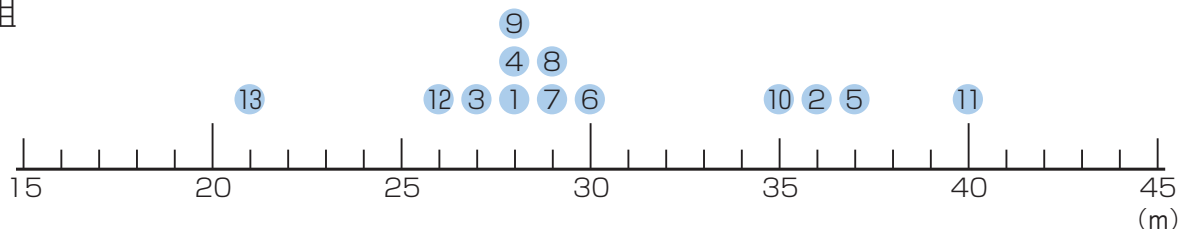
② 上のように、1 つ 1 つのデータを点で表して、数直線のめもりに合わせて^{なら}並べた図を、**ドットプロット**といいます。



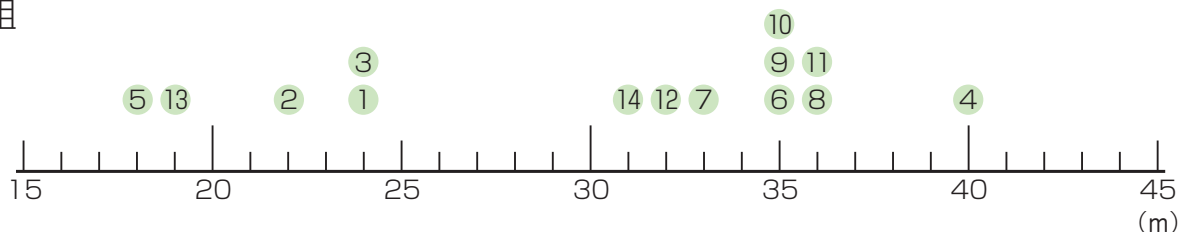
◆代表値

1 組と 2 組のデータをいろいろな見方でくらべましょう。

1 組



2 組



① データの中で最も多く出てくる値を **最ひん値** といいます。

その値は、1 組が **28** m、2 組が **35** m です。

② データを大きさの順に並べたとき、中央にある値を **中央値** といいます。

その値は、1 組が **29** m、2 組が **32.5** m です。

2 組のようにデータの数 ^{ぐうすう} が偶数のときは、まん中の 2 つ (12 番と 7 番) の値の ^{あた} い ^{へい} きん ^ち 平均値を求めよう。



③ 平均値、最ひん値、中央値のように、データ全体の特ちょうを代表する値を、**代表値** といいます。

④ 最ひん値でくらべると、**2** 組のほうが記録がよいといえます。

⑤ 中央値でくらべると、**2** 組のほうが記録がよいといえます。



◆度数分布表、柱状グラフ

「データの見方 ②」のドットプロットを見て、
1組と2組のソフトボール投げのデータを、表やグラフに整理しましょう。

- ① 投げたきよりを 5m ごとに区切り、それぞれの区間に入る人数を下の表に
書きましょう。

15m以上 20m未満
15m以上20m
未満には、20m
は入らないね。



ソフトボール投げの記録 (1 組)

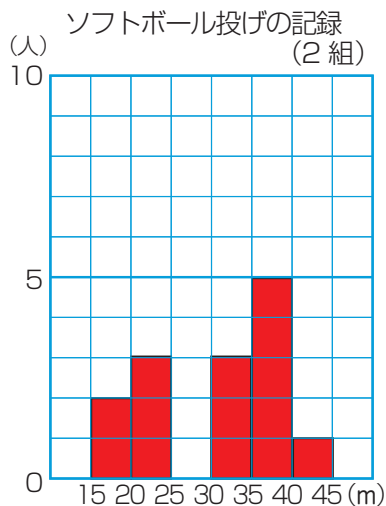
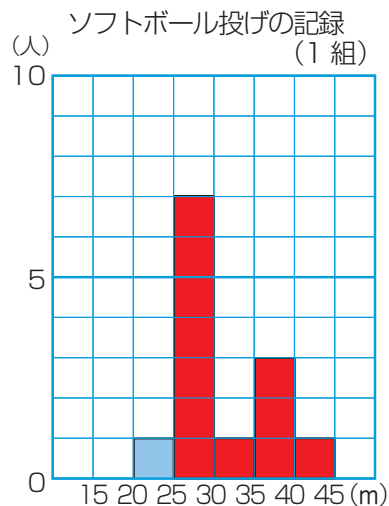
きより(m)	人数(人)
15 以上～ 20 未満	0
20 ～ 25	1
25 ～ 30	7
30 ～ 35	1
35 ～ 40	3
40 ～ 45	1
合 計	13

ソフトボール投げの記録 (2 組)

きより(m)	人数(人)
15 以上～ 20 未満	2
20 ～ 25	3
25 ～ 30	0
30 ～ 35	3
35 ～ 40	5
40 ～ 45	1
合 計	14

- ② データをいくつかの区間に区切って整理した表を、**度数分布表** といいます。
また、その区間のことを **階級** といい、それぞれの階級に入るデータの
個数を **度数** といいます。

- ③ ①の度数分布表を、散らばりの特ちょうがとらえやすくなるようにグラフに表し
ましょう。



- ④ 上のようなグラフを、**柱状グラフ** といいます。